

令和7年度第1回みきっ子未来応援協議会 議事録

【日時・場所】 令和7年9月2日（火） 19：00～20：00
教育センター 大研修室

【出席者】

<委員 14名> 【会 長】 百瀬和夫
※敬称略 【副 会 長】 戸倉美樹
【委 員】 角石智昭、中尾将浩、石川 緑、道本寛幸、
益田俊幸、来住哲州、平尾ゆかり、田中智美、
河原正則、浅和直子、田中啓規、大田亜由美

<事務局 23名> 【教育総務部】 森田眞規（部長）
[生涯学習課] 大西武宏（課長）
【教育振興部】 山口正明（部長）
[学校教育課] 武内克朗（課長）
[教育・保育課] 荒田知宏（課長）
富田訓子（主幹）
田井良和（係長）
岩崎国彦（事務専門員）
[教育センター] 小池宏尚（所長）
【市民生活部】 降松俊基（部長）
[人権推進課] 藤田英子（課長）
[子どもいじめ防止センター] 平田美香（センター長）
【健康福祉部】 山城千明（部長兼福祉事務所長）
[障がい福祉課] 山本容子（課長）
[こども福祉課] 小田康輔（課長）
大石恵子（課長補佐）
藤田恵子（係長）
山本晶子（係長）
三木清香（係長）
鳴瀬雅之（主任）
野田久美子（主任）
山田沙紀（主任）
中島陽夏（主事）

1 開会

2 会長あいさつ

ぜひ色々なご意見をいただきたいと思いますので、どうぞよろしく申し上げます。

3 委員・事務局自己紹介

事務局より、委員 15 名中過半数を超える 14 名の出席があり、会議が成立していることを報告

- ・委員自己紹介
- ・事務局自己紹介

4 議事

(1) 第二期子ども・子育て支援事業計画の実績報告について《資料 1》

《資料 1》に基づき令和 6 年度の実績について事務局より説明

【質疑応答】

<質問>

P8 の (11) アフタースクールについて、昔は夏休みや長期休みのみの利用があったが、現在もあるのか。また、どれくらい利用があるのか。

<説明>

夏休み限定でのアフタースクール利用は、今現在も継続し実施している。
長期休みに対して募集し、そのタイミングだけ使うという利用はある。
R7 年度は 89 名が利用した。

<質問>

入れなくて困る等はなかったか。

<説明>

入れなくて困るというよりは、違う校区になるということがある。
定員がある中で、皆に利用していただくことを考え、第 2・第 3 希望をお聞きし、折りが付くよう案内した。

<意見>

利用者の数が増えている地域や、今年のように記録的な夏の暑さの中で 8 時間以上過ごす子ども達もおり、その施設の職員が工夫しながら実施されていると思う。

就学前から小学校へと続く「かけはしプログラム」について検討されていると思うが、アフターで過ごす子ども達についても目を向け、滑らかな形でプログラムを作ってもらいたい。

<質問>

利用について、地域でのばらつきはあるのか。

<説明>

あります。定員をずっとオーバーしているところもあれば、届かないところもある。

<質問>

P4の(3)妊婦健診について、14回分助成とあるが、自己負担はないのか。

<説明>

令和6年度については14回分で10万5000円を上限に助成している。医療機関によって多少費用の違いがあるため、自己負担がないかわからないが、ほぼ助成内でできていると思う。令和7年度は12万円に増額している。

<質問>

母子手帳交付前に健診した場合、対象になるのか。

<説明>

保険診療分は助成できない。

保険外の方で、妊婦健診として受診された分は助成できる。

(2) 部会における協議テーマについて《資料2》

《資料2》に沿って、事務局より説明

※【要保護児童部会】

児童福祉法に規定された要保護児童対策地域協議会としての役割を担う非公開の部会

【質疑応答】

<質問>

「就学前教育・保育部会」の議題の2つ目、特定教育・保育施設とはなんですか。

<説明>

幼稚園・保育所・認定こども園のことです。

5 報告

・子育て環境部会の議題「こどもの意見聴取」について

「こどもまんなか社会の実現」に向け、こどもの意見を出来る限り施策や事業に反映させるため、こども自身の意見を聞くことが重要視されている。

こども自身の意見を聞く機会を設けるにあたり、どのような形で行うのか等について、子育て環境部会で検討していき、全体会にフィードバックしていく。

・就学前教育・保育部会の議題「国の進める施策」について

こども誰でも通園制度というこどもの良質な成育環境の整備を目的とした制度について検討する。

<質問>

三木市こども計画のこども向け概要版について、どうなったのか。

<説明>

こども向け概要版について、昨年のみきっ子未来応援協議会で「どの学年くらいに理解できるようにするのか」という指摘があり、委員や学校の先生方にもご意見をいただいた。

最終的に、教育委員会と相談し、あまりに低学年に絞りすぎると内容がわかりにくくな

るため、小学4年・5年生以上であれば理解できると考え、教壇に立たれる先生方にも見ていただき作成した。

内容的には概要版と同様、大事な部分についてはカバーできていると思う。

委員にご覧いただき、少しずつ見直し出来るだけわかりやすいものにしたいので、会議の場だけでなく気軽にご意見をいただければと思う。

<意見>

裏面にメールアドレスが入ったり、指摘した部分が反映しておりよかった。

これを活用し、こどもの意見が聞きやすくなるよう進んだと思う。

<助言> 百瀬会長

主体的・対話的で深い学びの時代で、こどもの考えや意見を聞くことは本当に大事なことです。こどもが自分事にならないと、この国はおかしくなると思う。

アフタースクールについて、三木市以外でも各市で学童等を持っており、支援員の研修も結構あるが、支援員の指導力がすごく問われているので、十分気をつけて研修等でケアをしてほしい。

特定教育保育の評価について、もう10年になりますが、兵教大の先生と2人で毎年周っている。

三木市の保育のレベルは、すごく高い・レベル上がったと感じる。

先日も行きましたが、ある所で3~5歳の児童が竹割りされていた。児童が竹の子を持ってきたので、みんなで皮むいて食べてみた。そこから始まり「竹って何だろう」と竹を切り出し、七夕があるから短冊作って、見に行った時には流しそうめんをしていた。

食紅で染めたくずきりで、絶対食べるなど言い聞かせながら、流すこと楽しんでいた。

おもしろかったのが、先生が流してくれるのを最初みんなは箸持っておとなしく待っていた。

次に水風船を流していた。水風船を流すと途中でつまったりしておもしろいことが起こる。

さらにその後は、年長児童の作った船を流し始めた。

何が言いたいかというと、小さな変化の繰り返しで、こどもがだんだん興奮してくるのです。ギャーっていう歓声が聞こえてくる。それを見ながら、こういう風に刺激したら、きっと色々な意味で成長するのだらうと思った。

今からは個別最適化の時代となり、1人1人がどんな成長して、どんな学びを自分事にしてやるのかという時代が変わっている。

そうやって育っていますので、小中学校でも繋いでいき、もっと成長させていただけたらありがたい。今後とも皆で頑張っていきましょう。

6 閉会

閉会あいさつ

本日は大変貴重なお話をしていただきありがとうございました。

年の離れた子育てをしていた中で、上の子の時になく、こんな新しい制度が始まっているんだと何度か気付いたことがあった。

着実に子育てがしやすい環境作りが整えられてきているんだと実感している。

これからの若い世代がもっと三木市で子育てをしていきたいと思える環境作りに皆さんと尽力し取り組みたいと思う。

本日はありがとうございました。